



統合型サーバに関する特記事項

この章の内容は、次のとおりです。

- [概要, 1 ページ](#)
- [サポートされている FEX-to-FI のアップリンク ケーブルの SFP タイプ, 1 ページ](#)
- [C シリーズサーバのファームウェアのアップグレード, 2 ページ](#)
- [統合されたサーバの電源の状態とサービス プロファイルの電源の状態, 4 ページ](#)
- [アダプタ カードの考慮事項, 5 ページ](#)
- [FEX の考慮事項, 5 ページ](#)

概要

Cisco UCS システムの C シリーズ サーバに接続する場合は、次の点を確認してください:

- [統合型サーバでの Cisco UCS P81E VIC ファームウェアと uboot イメージの更新](#)
- [統合されたサーバの電源の状態とサービス プロファイルの電源の状態, \(4 ページ\)](#)
- [アダプタ カードの考慮事項, \(5 ページ\)](#)
- [FEX の考慮事項, \(5 ページ\)](#)

サポートされている FEX-to-FI のアップリンク ケーブルの SFP タイプ

C シリーズ UCSM の統合には、次の用途で 10 Gb SFP ケーブルが 6 本必要です。

- サーバと 2248 FEX との間のデータ トラフィックのパスの接続 : ケーブル 2 本
- 2248 FEX から FI へのアップリンク : ケーブル 4 本

FEX から FI への 4 つのアップリンクでは、Cisco 10 Gb Twinax ケーブルか、次の SFP タイプのいずれかを使用できます。

- SFP-10GE-SR
- FET-10GE



注意 アップリンクで SFP タイプを混在使用しないでください。アップリンクで SFP のタイプを混在させると、「Discovery failed」のエラーが発生します。

C シリーズ サーバのファームウェアのアップグレード

Cisco UCS C シリーズ サーバの CIMC のリリース バージョン 1.2(2) は、Cisco UCS Manager 1.4 または 2.0(1) との統合に必要なレベルです。サーバの CIMC のリリース バージョンが Cisco UCS Manager との統合の要件を満たしていない場合は、サーバを Cisco UCS ドメインに接続する前に、サーバのファームウェアをアップグレードしてください。

ステップ 1 お使いのサーバに対応する Host Upgrade Utility ISO ファイルのダウンロードをオンラインで検索し、ワークステーションの一時保存場所にダウンロードします。

- a) URL <http://www.cisco.com/cisco/software/navigator.html> を参照してください。
- b) 中央のカラムで [Unified Computing and Servers] をクリックします。
- c) 右側のカラムで [Cisco UCS C-Series Rack-Mount Standalone Server Software] をクリックします。
- d) 右側のカラムでお使いのサーバのモデルをクリックします。
- e) [Unified Computing System (UCS) Server Firmware] をクリックします。
- f) ダウンロードするリリース番号をクリックします。
- g) [Download Now] をクリックして ISO ファイルをダウンロードします。
- h) 次のページで情報を確認後、[Proceed With Download] をクリックします。
- i) 次の画面に進んでライセンス契約に同意し、ISO ファイルを保存する場所を指定します。

ステップ 2 ISO を準備します。ローカルアップグレードの場合はローカルメディアを、リモートアップグレードの場合は仮想デバイスを準備します。

オプション	説明
ローカルアップグレード	<p>ステップ 3 に進む前に、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 書き込み可能な DVD に ISO イメージを書き込みます。 2 VGA モニタと USB キーボードを Cisco C シリーズ サーバに接続します。 3 Cisco C シリーズ サーバの DVD ドライブまたは外付け DVD ドライブに DVD を挿入します。

オプション	説明
リモートアップグレード	<p>ステップ 3 に進む前に、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ブラウザを使用して、アップグレードしているサーバ上の CIMC Manager ソフトウェアに接続します。 2 ブラウザのアドレスフィールドにサーバの CIMC IP アドレスを入力し、次にユーザ名とパスワードを入力します。 3 KVM キーボードのアイコンをクリックして [KVM Console] ウィンドウを開きます。 4 Virtual KVM コンソール ウィンドウが開いたら、[Tools] > [Launch Virtual Media] を選択します。 5 [Virtual Media Session] ウィンドウで、[Add Image] をクリックし、ユーティリティ ISO ファイルを検索し、選択します。ISO をダウンロードした場所に移動します。ISO イメージが [Client View] 領域に表示されます。 6 [Virtual Media Session] ウィンドウで、追加した ISO ファイルに対応する [Mapped] カラムのチェックボックスを選択して、マッピングが完了するのを待ちます。[Details] 領域の進行状況を観察します。 <p>これで ISO イメージがリモート デバイスにマッピングされました。</p>

ステップ 3 サーバを起動し、[Boot Menu] 画面を開くためのメッセージが表示されたら、F6 を押します。

ステップ 4 [Boot Menu] 画面で、ステップ 2 で ISO を作成したデバイスを選択します。

- ローカルでアップグレードを行っている場合は、物理的な CD/DVD デバイスを選択し、Enter を押します (たとえば [SATA5:TSSCorp CDDVDW TS-L633C] など)。
- リモートでアップグレードを行っている場合は、[Cisco Virtual CD/DVD] を選択し、Enter を押します。

選択したデバイスからサーバがリブートされます。

ステップ 5 画面に BIOS と CIMC ファームウェアのバージョンが表示されます。プロンプト「Have you read the Cisco EULA (end user license agreement)?」に応答します。

- EULA に同意して更新を続ける場合は y を押します。
- EULA を読むには n を押します。EULA が表示され、更新を続けるには y を、キャンセルするには n を押すよう求められます。n を押すと、更新を行わずにサーバが再起動されます。
- 更新を行わずに終了するには、q を押します。q を選択するとサーバが再起動されます。

[Host Upgrade Menu] 画面が表示されます。

ステップ 6 「Enter Choice」プロンプトで、[All the above] メニュー アイテムに対応する数字を入力し、すべてのファームウェアをアップグレードします。
ユーティリティによって、お使いのサーバに適したファームウェアコンポーネントが選択され、ファームウェアのアップグレードが実行されます。アップグレードが完了したことをコンソール画面で確認してから、ステップ 7 に進みます。

ステップ 7 [Host Upgrade Menu] で、「Enter Choice」プロンプトが表示されたら、[Reboot (Configures CIMC to UCSM mode—default factory settings)] メニュー項目に数値を入力して、UCSM モードでサーバをリブートします。
ユーティリティによって、UCSM モードの設定を使用してサーバが再起動されます。このモードで Cisco UCS 環境との統合を実行できます。

- (注)
- 再起動中に、新しい CIMC ファームウェアが自動的にアクティブ化されます。
 - UCSM モードの設定では、DHCP、アクティブ-アクティブの NIC 冗長化、および NIC の Shared LOM モードがイネーブルになり、CIMC は管理ポートではなく 1Gb LOM ポート経由で制御されます。スタティック IP アドレスと管理ポートはすべてディセーブルになるため、CIMC との接続は失われます。

次の作業

サーバを互換性のあるサーバリリースバージョンへアップグレードした後、サーバを Cisco UCS ドメインの一部として、サーバへの物理的接続を確立する必要があります。サーバを Cisco UCS FEX および FI に接続するには、[サーバと Cisco UCS ドメインとの接続](#)を参照してください。

統合されたサーバの電源の状態とサービス プロファイルの電源の状態

電源ボタンまたは Cisco UCS Manager を使用して、統合された C シリーズ サーバの対応するサービスプロファイルに希望する電源の状態を Down と設定している場合、サーバを停止させて Down 状態にしようとする、サーバと実際の電源の状態が一致しくなくなります。これにより、この後、サーバが予期せずシャットダウンすることがあります。

電源がオフの状態からサーバを安全に再起動するには、Cisco UCS Manager でブートサーバアクションを使用します。

次の表は、サーバの電源ボタンを使用した場合に、サーバの実際の電源状態と Cisco UCS Manager サービスプロファイルの電源状態がどのように違うかを示しています。

表 1: サーバの電源の状態とサービス プロファイルの電源の状態の違い

サービス プロファイルの初期電源状態	サーバの初期電源状態	実際の電源ボタンによる操作	アクション後の実際のサーバの電源状態	[UCSM Equipment] タブに表示される電源状態	サービス プロファイルで必要とされる電源状態
Down	Off	ボタンを押して電源を入れる	On	On	Down
Up	On	ボタンを押して電源を切る	Off	Off	Up

アダプタカードの考慮事項

アダプタカードの追加、削除、交換時における稼働中止/再稼働

UCS で管理されるサーバでアダプタカードの追加、削除、または交換を行う場合は、まず Cisco UCS Manager でサーバの稼働を中止する必要があります。処理が終了したら、サーバを再稼働させます。

2 枚の Cisco UCS P81E VIC アダプタカード装着時における NIC/vHBA のプライオリティ

統合型サーバに Cisco UCS P81E 仮想インターフェイスカード 2 枚、またはが装着されている場合、Cisco UCS Manager での PCI 順序は Adapter 1 の vNIC/vHBA が Adapter 2 の vNIC/vHBA よりも優先されます。

SR-IOV/ARI バス予約 BIOS 設定の変更後の再確認

C200 または C210 サーバでは、BIOS バージョン 1.4(3c) 以降において、SR-IOV/ARI (Single-Root I/O Virtualization/Alternative Routing-ID Interpretation) によるバス予約をイネーブルまたはディセーブルにするオプションがあります。UCS 管理対象サーバの SR-IOV/ARI バス予約設定を変更した場合は、サーバを再確認する必要があります。

FEX の考慮事項

2248 FEX の稼働中止/再稼働後の接続先サーバの再確認

Cisco UCS 2248 FEX の稼働中止または再稼働後は、必ずその FEX に接続されているすべてのサーバを UCS Manager で再確認する必要があります。

